

## いきいき会員運動推進「赤いりんごの会」 ～人々に愛されるYMCAを目指して～

シエル・シルヴァスタイン著の絵本『おおきな木』の表紙に描かれた赤いりんごに着想を得て名づけられた「赤いりんごの会」。熟すのにまだ時間のかかる「青いりんご」、熟すまでもう少しの「黄色いりんご」、そして、すぐに実行できるものを「赤いりんご」と定め、3つの目標と7つの赤いりんごテーマにもとづいて、常議員、運営委員と職員が協働し協議が進められています。「赤いりんごの会」という名称には、マルチン・ルター「たとえ明日、世界が滅びようとも、りんごの木を植えよう」という言葉のように、YMCAが抱える様々な課題に迅速に取り組んでいく、とする意気込みも込められています。

YMCAは、専門学校や幼稚園・保育園の運営、子ども向けのスポーツ教室やキャンプ、語学学校やフィットネスなど、幅広い事業を展開しています。こうした事業の目的は、「よりよい社会を実現すること」。しかしながら、YMCAは、事業の多様性や運営方法の特殊性から、何をしているところかわかりにくい、といった指摘を受けることがあります。

YMCAでは、ボランティアによって構成される理事会や常議員会、運営委員会によって、運営方針が決定されています。その中で、より多くの人たちにもっとYMCAのことを知ってもらい、活動に参加してもらおうと意見が挙がり、「赤いりんごの会」が生まれました。



母の日にお母さんへの感謝のメッセージ(みなみYMCA)



1月に開催された常議員・委員研修会。課題解決へ向けた具体策が提案され、協議されました。

3月に開催された常議員会で、「赤いりんごの会」推進体制(下図参照)が決議され、課題解決に向けてスタートを切りました。この会は、会員運動推進のための自発的な会員運動で、2年目を迎える「共に生きる社会づくり3カ年計画」とも関連します。キーワードは「主体性」「見える化」「担い手会員育成」。熊本YMCAは、より地域に認められ、愛される組織を目指して、歩んでいきます。

**C O N T E N T S**

- ① 会員運動「赤いりんごの会」
- ② 2011年度会員総会/東日本大震災復興支援活動
- ③ 会員総会奨励 川尻キリスト教会 高口喜美男さん  
アガベNo.63「私たちにできること」  
event report 西日本地区リーダー研修会  
YMCA学院スポーツデイ
- ④ Life 第36回  
みずもとこどもクリニック 水元裕二さん①  
People (地域YMCA情報)  
マスターズ水泳チーム/ボクシングクラス/  
歌声広場わいわい

### わたしと聖句

詩篇56章9編

あなたはわたしの嘆きを数えられたはず。あなたの記録にそれが載っているのではありませんか。あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください。

### 涙の革袋

「男はそんなに泣くもんじゃない」とよく子どもに言い聞かせる親御さんがおられます。果たしてそうでしょうか? 私は、家族で感動する映画を

見ていて号泣し、妻や娘に怪訝そうな顔で見られることがあります。科学者のウィリアム・フレイ二世が涙と感情には深い関わりがあり、感情による涙は、刺激による涙よりも、より高濃度のタンパク質を含んでいるという研究発表をしました。ダビデは「わたしの涙を、あなたの革袋に蓄えてください」と祈っています。神様のために、また人々のために流す涙を神様は革袋に蓄えるように尊く扱ってください。

東日本大震災では、多くの命が失われ、いまだ避難所生活を強いられている人々があります。私たちの教会でも、

わずかですが支援活動を行っています。その活動の準備中、私は突然、火災で父を失いました。福岡に住む父は、体が少し不自由になり、年内には熊本で一緒に生活する予定でした。突然家族を失う悲しみを経験し、私は宮城県の女川町に行きました。現地で闘っておられる方々と涙する中で、悲しみを共有し隣人になるという貴重な体験的な学びをしました。その涙は絆を深め、心を癒す大きな力があることを学んだのです。神様はあなたの涙を特別な革袋に蓄えてくださる方なのです。

熊本ハーベストチャーチ  
中村 陽志

## 赤いりんごの会

1. YMCAの主体性・魅力
2. YMCAの見える化
3. YMCA担い手会員の育成

**役割** 常議員会に諮りながら、計画・遂行に関する総合的な調整を行う

**構成** 常議員、運営委員、職員

### 〈常議員会〉

「共に生きる社会づくり3カ年計画」  
(2010年～2012年)

1. 子どもたちの人格形成
2. 支えあうコミュニティの創出
3. 地球市民の育成

### 〈運営委員会〉

### 1. YMCAの主体性・魅力

- ① 地域での茶話会、市民講座
- ② 無縁社会にYMCAが取り組む

### 2. YMCAの見える化

- ③ 担い手会員をイメージした受付対応
- ④ YMCAグッズ拡販
- ⑤ 定期的な楽しいメッセージのあるメールマガジン 配信

### 3. YMCA担い手会員の育成

- ⑥ メンター制度\*1の導入
- ⑦ 運営委員「ポスティング」移籍\*2

\*1...メンター制度とは、若手職員がメンター(相談者・助言者)となってマンツーマンで新入職員をサポートしていく制度です。職務上の上司・部下の関係ではなく、まったく別のつながりを指します。経歴や年齢の比較的近い先輩が、新人の不安や悩みの解消、業務の指導・育成を担当します。YMCAにおけるメンター制度は、常議員会・運営委員会などにおける同様のシステムのことを表しています。

\*2...熊本YMCAには、中央YMCA運営委員会、上通YMCA運営委員会、みなみYMCA運営委員会、ながみね・けんぐん運営委員会、むさしYMCA運営委員会、阿蘇YMCA運営委員会、野外教育運営委員会、専門学校運営委員会、東部YMCA運営委員会、ICR・メンバーシップ委員会の10の運営委員会があり、各委員会の活性化のため、その構成メンバーを一定の周期で意図的に移籍させようという考え方です。